

子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）

15～45 歳までの女性の場合

HPVワクチンは、第一の接種推奨年齢として11歳～14歳女子としており、名古屋市の公費助成対象年齢は中学1年から高校1年の女子となっております。しかし、この年齢枠以上の方効果がないわけではありません。あくまでも、性交渉が始まるまでに接種を推奨しているということです。HPVは主に性交渉で感染するため、15歳以上であっても性交経験のない女性は全面的にHPVワクチンの利益が得られることとなります。また、すでに性交経験のある女性においては、ワクチンに含まれるいずれかのHPV型に感染している可能性はあるものの、ワクチンに含まれる未感染のHPV型による疾患の予防効果が得られます。

性交渉の相手が夫だけの若い既婚女性に、ワクチン接種を勧める必要はないのかもしれませんが、パートナーの数は接種の必要性に関係なく考えていただいたほうが良いでしょう。

子宮頸がんすでに感染しているかどうかの検査（HPVテスト）において、HPV16型あるいはHPV18型のいずれかに感染していたとされても細胞性免疫により排除されるため、陽性であった方すべてが、発症するわけではありません。HPV検査では、単に付着しているだけのものも、基底細胞内にまで入り込んだものも、すべて陽性として判定されてしまいます。特に若い方の陽性判定は細胞の表面にHPVが付着しているだけの一過性感染が多いそうです。しかし、本ワクチン接種は、定期的な子宮頸がん検診に代わるものではないので、ワクチン接種を行った女性も定期的な子宮頸がん検診を受けるようにしてください。



一社 **アレルギー科**
ALLERGY & KODOMO **クリニック**
こども